

いにしえ
キラリよしおか古語り⑬



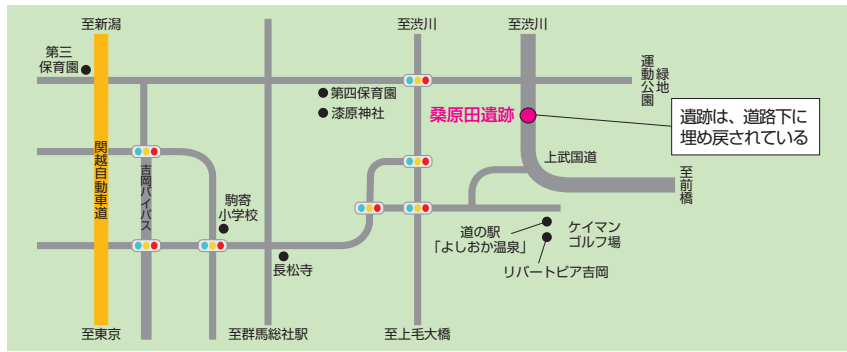
発掘された畔と水路



水田の泥流痕跡 大きな岩がこの上を流れて行ったと考えられる。



水田の上を泥流が流れたことが確認できる。



今から236年前のことです。天明3年（西暦1783年）、日本の火山噴火の災害としては最大といわれる、浅間山の大噴火がありました。大きな火砕流が発生し、火砕流は土石流へと拡大して吾妻川に流れ込み、天然ダムができては決壊するという事を何度も繰り返しながら、大量の泥流が利根川に流れ込み、上野国を中心に下流域に甚大な被害をもたらしました。

吾妻川と利根川の合流地点に比較的近い位置にある吉岡町でも、この泥流による大きな被害がありました。利根川沿いにある漆原地区では、多くの田畑が土砂に埋め尽くされ、漆原用水は壊滅したそうです。漆原の桑原田遺跡からは、厚さ1.5mから3mもある泥流に埋もれた水田と水路が見つかり、水田の表面には、泥流に含

利根川を流れ
下った天明泥流

まれた岩塊によって削り取られた跡がくっきりと残っていました。

幸い、この泥流で現在の吉岡町にあたるこのでの死者はいなかったようですが、生活の重要な基盤である田畑を一瞬のうちに失い、用水の被害で田畑が干上がり、多くの人が困窮に苦しみ、大変苦労されたようです。

災害の危険性が比較的少ないと言われていた吉岡町にも、このような大規模な災害の痕跡があります。今となっては「古語り」ではありませんが、地球規模で考えると236年は「ちょっと前のこと」ではないでしょうか。

資料提供・取材協力：

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
吉岡町教育委員会・文化財センター

編集後記

「来る人去る人」と慌ただしく人の流れる季節を迎えました。いつも「よしおか議会だより」を愛読していただき、誠にありがとうございます。

吉岡町議会も今年4年間の任期を終わろうとしています。議会だよりは、町の予算や条例など議会で審議された内容を、町民にわかりやすく読みやすく、時には思考を変えて記事にしてみました。

編集委員は、読んでもらえる広報を作るため、編集に夜の8時ごろまで続くこともありました。そんな編集委員の努力によって議会の活動や議員の顔も目立つようになり、議会だよりも読みやすくなったと思います。

さらに、町民の声など取り入れた、一段と密度の濃い広報誌を目指してほしいと願っています。

(議長 馬場 周二)

編集委員

- 委員長 金谷 康弘
- 副委員長 村越 哲夫
- 委員 高山 武尚
- 委員 竹内 憲明
- 委員 五十嵐 善一
- 委員 富岡 大志